

やまぐち

桜の森

2013.4 第11号

通信

山口県立大学広報誌



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University



【特集】

グローバル人材育成

この半年の出来事

研究室紹介
講義紹介
相談の森

学生紹介
サークル紹介

国際交流
スタッフ紹介

当初予算概要

トピックス



山口県立大学学長
(理事長)
江里 健輔

山口県立大学が変わる — 展開される国際化 —

今、社会はコミュニケーション力のある人材を求めています。そのためには、グローバル・マインドを持った学生を養成することが社会のニーズに応えるという理念から、文部科学省は全国の大学を対象として、グローバル人材育成推進事業プロジェクトを設けました。本学のプロジェクトは、申請数152件の中から優れたプロジェクトとして採択されました（採択数42件、採択率28%）。海外研修や海外留学の体験を通じ、コミュニケーション能力を涵養することで、地域を世界に売り込める能力を有する「インターローカル人材」を育成します。数年後には、地域の国際化に向けた原動力となることでしょう。

心躍るプロジェクトが、いよいよ、ここ、宮野から発信されます。ご期待ください。

What is Global?

Here. Around Me!
グローバル人材が切り拓く
地域社会の未来

山口県立大学のモットーは「地域に貢献する人材」を育てることです。グローバルな視点から見れば、日本には大きな可能性があるにもかかわらずそれを伝えたり活かしたりできる人材が不足しています。山口県立大学国際文化学部では、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」を通して世界と地域をつなぐ「インターローカル人材」を育成する取組を開始します。

趣 旨

山口県立大学のモットーは「地域に貢献する人材」を育てることです。グローバルな視点から見れば、日本には大きな可能性があるにもかかわらずそれを伝えたり活かしたりできる人材が不足しています。

山口県立大学国際文化学部では、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」を通して世界と地域をつなぐ「インターローカル人材」を育成する取組を開始します。

事業の開始を記念して、3月29日に「キックオフ・フォーラム」を開催しました。

目 的

「地域」と「グローバル社会」の架け橋になる人材「インターローカル人材」を育成すること

Inter-local人材とは

世界の地域と日本の地域をつなげて課題解決に向かう姿勢をもち、歴史的・文化的・自然的・人間的な資源の価値や可能性に着目し、地域を世界に「売り込める」力を有する人材です。

取組概要



特 徴

Inter-local人材育成のステークホルダー
地域に生きる人々が抱える具体的な探求テーマを持たせて、学生を留学に旅立たせます。産業界・行政・市民団体・国内外の地域に生きる人々がそのステークホルダーとなります。

Inter-local人材が変える30年後の日本社会
少子高齢化が急速に進行する山口県での学びを活かし、「30年後の日本社会」を見据えて、人々の生き方を変革する原動力となります。

本事業が従来の試みと異なっている点
外国語コミュニケーション能力の育成はもとより、地域と世界をつないだ課題解決能力の育成を図るため、留学を通して取り組むテーマに関する事前学習から成果発表までの一貫した教育を行うとともに、県内外や海外の関係団体（大学、行政、企業、市民活動団体等）とのネットワークによる学びの場も用意します。



魅力

1. 言語能力+異文化コミュニケーション能力で世界で通用する人間力を身に付ける

CALL/e-learning環境を整えた「アクティブラーニング・ランゲージ・ラボ」で学習します。英語・中国語・韓国語・スペイン語から一つの言語を選択し、入学から卒業まで一貫した自己目標を設定し到達度を測る「マイ言語履修管理サポートシステム」を活用して、語学力と異文化コミュニケーション能力を伸ばします。

2. 域学共創学習プログラムでリアルな現場感覚を伸ばす

地域やグローバルな課題について取り上げ、具体的な課題の提示→グループ学習→解決策の提案→プレゼンテーション→ミニレポートの作成というサイクルを持った授業を展開します。グループ共同学習のほか、産学公（経済界、海外の大学、行政、NPO/NGO等）から講師を招いて実践的な教育を行い、ICTを活用し国内外をインターネットでつないだ講義を展開します。

3. 域学共創フォーラム・コンソーシアムで就職や将来につながるネットワークを構築する

山口県内をはじめ全国の企業や行政、NPO/NGO、海外の大学が集まって学びの輪をつくります。実際に学外講師を招くほか、ICTを活用した講義、現場に出かけての実地体験、留学前の地域課題提供、留学後の成果発表を支援する場となります。ここでは、卒業後の進路や就職につながる場となるとともに、生涯にわたって自分を磨き続ける場ともなります。

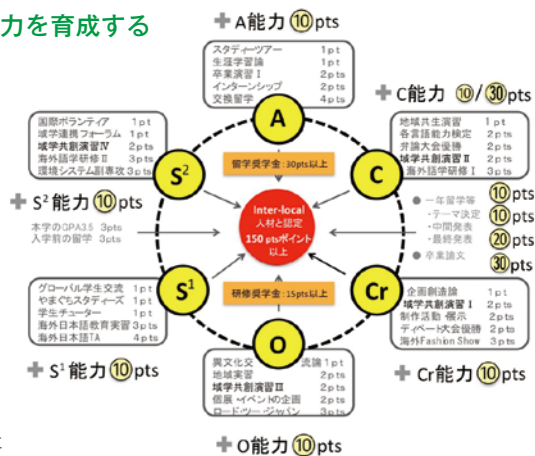
4. ACCrOSS能力で日本を知り世界へ近づくクロスボーダー力を育成する

インターローカル人材に必要な6つの能力を「ACCrOSS」能力とします。

「ACCrOSS」は、国、文化、世代などの様々なボーダーを超えることが出来る力です。

- A : Alternative perspectives and all encompassing vision
(異なる視点から物事を見る力)
- C: Communication, collaboration and community mindedness
(コミュニケーション力やコミュニティマインド)
- Cr : Critical reflection and creative thinking
(批判的創造力)
- O : Open-mindedness and objective-based action
(オープンな目的意識に基づいた実行力)
- S1 : Self-identity and self initiative
(自己アイデンティティ)
- S2 : Systems thinking leading to sustainable solutions
(システム発見・構築力)

これらの能力を伸ばすためにはどの科目を履修し、こういった活動をすればよいか、eポートフォリオを活用し、学生自身が目標を立て、自分の成長を測りながら次の目標を立てられます。



人材育成プロセスを可視化する「IPDポイント制度」

5. IPDポイント制度 (Initial Professional Development) でインターローカル人材を認定する

IPDポイント制度により、海外研修や実習、留学を希望する学生に対し、奨学金制度を活用して経済的支援を行います。指定された科目、英語で開講する科目の履修、言語や異文化体験に特化した語学文化研修、専門領域に特化した海外実習や留学など、様々な学びや体験をポイントとして貯めていきます。入学前の留学体験や語学検定結果、ボランティアなどでもポイントを貯めることが可能です。また、インターンシップ体験、語学のコンテスト出場経験、各種検定結果、国際交流活動をはじめとする自主的な活動にもポイントがつかます。150点以上のIPDポイントを獲得した学生には「インターローカル人材認定証」を授与します。具体的な証明を持つことで、自己のキャリア形成や就職活動への自信につながります。

事例

「地域実習」(18プログラム)のうち、国内実習は、山口県内で海外からの青年を交えて行うNICE国際キャンプやRoad to Japanでの通訳補助、山口EU協会や山口日仏協会など。海外実習は、山口県の国際協力団体が海外で行う支援現場での実習(タイ、ベトナムなど)、台湾の大学での日本資料整理補助など。(昨年度の履修学生は74名)

グローバル人材育成推進事業で実施した海外スタディーツアー(13プログラム)の内容は、「ハワイの高齢者を対象とした調査」(アメリカ)、「極北の資源を背景としたデザインについての文化比較」(フィンランド)、「貧者のためのデザインと開発人類学」(インドネシア)、「台湾における古建築再生におけるアートマネジメントと服飾デザイン」(台湾)、「多文化国家を学ぶスタディーツアー」(シンガポール)、「国連ミャンマー難民キャンプ訪問とスラム支援活動に学ぶ」(タイ)など。(参加学生168名)

学生による成果発表は、「キックオフ・フォーラム」にて、グローバルカフェとして展示・報告しました。

文化遺産を活用した観光プログラム(ドイツ)



日韓6大学セミナー・釜山フィールドワーク(釜山)



中国フィールドワーク(山東省)



CIEE国際ボランティアキャンプ(周南市)



▶▶▶▶ YPU New Wave

この半年の出来事

昨年10月から今年3月までの主な出来事について、報道発表（ニュースリリース）したものを中心に紹介します。



10/14 ○大学院オープンキャンパス

大学院の取組を広く紹介し、進学の参考としていただくため、大学院としては初めてのオープンキャンパスを開催しました。各研究科の紹介やシンポジウム、大学院修了者・在学生による大学院生活の紹介などを行いました。



江里学長による開催のあいさつ

10/26～11/4

○「Road to JAPAN 2012」プロジェクトに参加

山口県青少年地域国際交流推進コンソーシャムが文部科学省の委託を受けてアジア～太平洋地域11カ国のボーイスカウトを招いて交流を行う招聘事業が開催されました。本学はコンソーシャムよりボランティア依頼を受け、学生が招聘者の生活サポートやプログラムの一部を担当したほか、プログラムガイドブックのデザイン及び翻訳、名札の制作など多方面から国際交流を行うことにより、異文化への理解や招聘者との絆を深める事が出来ました。



フィジーからの招聘者の通訳をしている様子

11/2 ○平成24年度桜園学術三賞・桜園会賞表彰式 桜園会（同窓会）との情報交換会

優れた教育・研究・地域貢献活動に大学から贈られる桜園学術三賞と、本学の支援や地域社会とのつながりにかかわる社会・文化的活動を桜園会（同窓会）がたたえる桜園会賞が決まり、表彰式を行いました。受賞者は以下のとおり（敬称略）。

【桜園学術三賞】教育賞 馬 鳳如(国際文化学部教授)

【桜園会賞】功労賞 古川綾子(桜園会山口支部)▽奨励賞 山口県立大学よさこいサークル奄美連合萩組▽同 山口県立大学災害ボランティア実行委員会ぶちボラYP 勇気

表彰式終了後、桜園会との情報交換会を行いました。



表彰式後の記念撮影



「Ms.OOJA」ライブ終了後の集合写真

11/3～4 ○山口県立大学学園祭 「華月祭（かづきさい）」

『喜努愛楽』をテーマに、学生による実行委員会主催の「華月祭」が開催されました。バンド演奏やダンス、模擬店や展示など、様々なプログラムにより2日間大いに盛り上がりました。

11/26～30 ○海外の学術交流提携大学(フィンランド・ラップランド大学)教授による5日間集中授業

教員交流事業の一環として、フィンランドからミツラ・ハアラロスキ教授をお招きしました。「フィンランドデザインからのインスピレーション」をテーマとした少人数ワークショップ型授業で、講義（指導言語・英語）・実習・プレゼンテーションまで行い、指導を受けました。



実習の「コマ



講義を行う大石氏

11/30 ○平成24年度山口県立大学客員教授特別講義 写真家 大石芳野氏 「ともに生きること、考えることーチェルノブイリと福島ー」

戦争や内乱が残す不条理に傷つき苦悩しながらもたくましく生き続ける人びとの姿をカメラとペンで追いつけている写真家・大石芳野氏を講師にお招きし、本学の学生・教職員、一般県民の方を対象に講義していただきました。



参加者の
記念撮影



12/9 ○宮野地域住民と県立大学生の大交流会

「地域住民と学生が共につくり、食して交流を広げる」という趣旨のもと、毎年開催されており、本学からは学生・教職員24名(うち留学生9名)が参加し、「おせち&郷土料理作り」を体験しました。出来上がった料理を美味しくいただきながら話に花を咲かせ、大変有意義な交流の時間となりました。

12/9 ○クリスマスファッションショー2012～デニム・ファッションデザインコンテスト&山口県立大学 Collection～

日本のクリスマスが山口から始まった史実に着目して、クリスマスの時期にファッションショーを開催しています。本年は、県内の高校生や大学生を対象に、山口県の地域資源であるデニムを使用したファッションデザインコンテストを行い、フィンランドから迎えたサンタクロースも審査員として参加しました。併せて、学部生や大学院生によるファッションショーなども行いました。



コンテストの結果発表・授賞式の一コマ



調印式の様子

12/20 ○山口県立華陵高等学校と教育連携事業に関する協定を締結

本学と山口県立華陵高等学校は、双方の英語教育の内容の充実や、グローバル人材の育成に向けた学生及び生徒の資質・能力の向上を図るため、協定を締結しました。今後は、これまで培ってきた交流関係をさらに深めながら、教育連携事業に取り組んで参ります。

1/24 ○看護栄養学部栄養学科・須金の里ひまわり会共同制作による“梨のチーズケーキ”試食販売会

周南市須金地区の特産品である梨を使用した“梨のチーズケーキ”のレシピを看護栄養学部栄養学科の学生が考案し、ひまわり会(周南市須金地区婦人部会)と共同で商品開発に取り組みました。商品化に向けてのPR試食販売会を、本学食堂などで行いました。

※本取組は、山口県の「中山間地域元気創出若者活動支援事業」を活用したものです。



試食販売会の様子



演目「神鳴り」の一コマ

1/29 ○鷲流狂言 in 山口県立大学

地域の方々や学生に、地域に伝わる貴重な伝統芸能に接する機会を提供するために、本学附属郷土文学資料センターが主催し、平成20年から毎年開催しています。山口県指定無形文化財である「鷲流狂言」(演目:「神鳴り」「しびり」「蚊角力」)を解説付きで上演するとともに、センター所蔵の関係資料の展示も行いました。

2/1 ○実験動物慰霊祭

学長を始め、学生や教職員60名が出席し、黙祷や献花などを行いました。本慰霊祭は、本学の教育・研究のために尊い命を捧げ犠牲となった多くの実験動物に対し、心からの感謝と敬意の念を表するとともに、私たちの健康や福祉が動物たちの命の上に成り立っていることを再認識するために行っているものです。



慰霊祭会場の様子



ゼミ生の発表の様子

3/9

○「やまぐち桜の森カレッジ*」ゼミ研究発表会・交流学習会

国際理解、子育て、法律、健康をテーマに、本学講師陣の指導のもと、2ヶ月間のゼミで学んだ成果発表会がありました。受講を終え、新たな視点や友を得た受講生は、充足感溢れる表情で帰途につかれました。

(※一般県民の方を対象としたゼミ形式の講座)

3/22 ○平成24年度学位記授与式

学部生345名、大学院生20名、別科生10名、計375名が、それぞれの希望を胸に、新たな一歩を踏み出しました。



学位記を受け取る卒業生

Welcome to
▶▶▶▶ LAB

研究室紹介

社会福祉学部 社会福祉学科

児童福祉研究室

准教授 山本 佳代子

児童福祉研究室には子どもの成長発達、親の子育て、地域における子育て支援等に関心がある学生が集います。児童福祉は子どもの「しわ寄せ」を追求する学問



でもあると考えます。キーワードは「子どもにとって」であり、様々な事象を常に子ども側から見つめることを大切にしています。

ゼミ学習では児童福祉実践に携わる専門職との交流や現場でのボランティアといった体験学習と、実践における理論や方法論の文献学習の両方を重視してい

ます。理論と実践はかけ離れたものではないことを理解し、それを現場で具現化していくための方法を共に考えるためです。子どもへの思いや経験は児童福祉実践に必

要なものですが、子どもや家族とかかわる専門職として、子どもの行動の科学的理解やアプローチを学び、現場でのソーシャルワーク実践へとつなげる力の向上も重要であると考えます。

研究室ではゼミでの学びに加え、児童福祉施設での実習やボランティアを重ね、演習論文テーマや就職へとつなげていく学生が多くおり、様々な場所で活躍しています。現在、山口県内で働く研究室の卒業生らの呼びかけで、児童ソーシャルワーク研究会の立ち上げが進んでいます。嬉しいことに、また一つ、ゼミ学生達の学びの場が広がりそうです。私自身も研究室OBやゼミ学生たちに刺激を与えられつつ、多くの学びを教授できるよう、学びの幅を広げていきたいと考えています。

共通教育機構

教育心理学研究室

教授 甲原 定房



ももとは集団の研究をしているのですが、最近では協同教育を大学で実践しています。協同教育というと「グループ・ワークのことでしょうか？」とイメージされる方もいます。しかし、協同教育ではグループの形態をとらないこともありますし、何より授業方法のことを言っているわけではなく、その背景にある考え方が協

同的か競争的かというところが大切なのです。

私の授業でも大教室の後ろの方では隣とお喋りをしている学生が時々います。きっと私の話よりも、隣の人に関心があるのでしょう。もし、そうならばお喋りの内容が授業内容に関わる内容になるようにすればよいのです。それは私たちが学会発表の会場やその後の懇親会で話し込んでいるのとあまり変わらないものです。せっかく大学で多くの学友と席を並べているのですから、この他者への関心を学びに利用すれば良いのです。別に試験や単位で脅かして勉強させる必要はありません。授業内容について「あなたはどうか考えるの？」と隣の人に質問する、あるいは説明する、ノートを交換してそれぞれ補完し合うといった活動を授業に入れるだけで、他者への関心は学習の動機づけとして作用します。

私の授業でも、このような活動の時間を設けています。これは話すことの楽しさや他者の優れた面への気づきといった体験になり、ほんの数分間の活動であっても学生には好評なようです。

授業の準備をすることや講義内容について考えることが、隣の学友の役に立っていると実感できるようなフレームこそが協同的な学びなのです。このフレームの中で学生は自分で勝手に学び始めます。私たちが大学で育てたいと考える人とは、このような人なのではないでしょうか。





▶▶▶▶ Watch Lecture

講義紹介

歴史文化実習

国際文化学部 文化創造学科
教授 稲田 秀雄



「歴史文化実習」は、国際文化学部文化創造学科の展開科目です。特に日本文化系を選んだ学生には、重点科目として2年次での選択を推奨しています。担当者は、稲田の他、伊藤幸司・木越俊介・加藤禎行の計4名で、それぞれの専門を生かしたオムニバス授業となっており、日本(地域)文化理解の前提となる、様々な資料の読み方や扱い方、それらの歴史的・文化的背景の調査の仕方に関する講義と実習によって組み立てられています。

具体的には、古典から近代までの文献資料を読むための基礎知識、各種の辞書の使い方、和装本・近代文庫の書誌、歴史史料(古文書・巻物など)の扱い方、電子文献を含む文献探索等を行います。平成23年度の授業では、「辞書の使い方」(伊藤)、「文字を読む(旧漢字・くずし字など)」(加藤・木越)、「古典の基礎知識」(稲田)といった基礎編から始まり、「資料・研究論文の探し方」「オンライン上の資料の使い方」(加藤)、「和装本の書誌」(木越・稲

田)、「歴史史料について」(伊藤)などの応用編を経て、最終的に、受講生が与えられた課題についてグループごとに調査結果の発表を行いました。また、学外授業(行き先は毎年変更)として、山口県文書館地下書庫の見学も実施しています。

写真は、「和装本の書誌」の第1回で、和本(写本)の一種である巻物(レプリカ)を実際に手にとって、その扱い方を体験してもらっている様子です。



▶▶▶▶ Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教職員がお答えします。

Q 学生の頃「ロミオとジュリエット」の映画に感動しました。子どもたちも手を離れたので、これからシェイクスピアの作品を読んでみたいと思いますが、どんな作品がおすすめでしょうか。またDVDで観られる作品があるでしょうか。[50代女性]

A 子育てご苦労様でした。「ロミオとジュリエット」は今も若い人たちを中心に人気がありますが、人生の大仕事を終え円熟期を迎えられた方には「ハムレット」、「オセロー」、「リア王」、「マクベス」といった悲劇をまずお勧めいたします。人間なら誰もが持っている悲劇性が卓越した力量で描かれていますので、人間や人生を客観的に見ることのできる年齢に達した方には特に味わい深い作品となるはずですが、シェイクスピアは37もの作品を残していますので、どれを手取るべきか迷うところですが、本来舞台上で演じられるものですから、喜劇と呼ばれるいくつかの作品は文字で読んだのでは十分におもしろさが伝わらないかもしれません。

次にDVDですが、比較的最近のものでは、アル・パチーノ主演の「ベニスの商人」、メル・ギブソン主演の「ハムレット」があります。アル・パチーノの演技力は言うまでもありませんが、メル・ギブソンも実はシェイクスピアの作品に負けないだけの實力をもっています。またもうひとつ挙げるなら、「羊たちの沈黙」などの映画で並はずれた演技力を発揮するアンソニー・ホプキンス主演の「タイタス」です。原題は「タイタス・アンドロニカス」ですが、映画ではタイトルが短縮されています。映画というよりも演劇に近い印象を与え、観たあとで恐怖や不快感をも含む複雑な感動が続く作品です。



国際文化学部 国際文化学科
教授 松田 理
(専門領域: 英文学)

▶▶▶▶ Interview Student's 学生紹介

いま、キミは輝いて

笑顔いっぱいのまちを

社会福祉学部
社会福祉学科4年

矢野 志織さん
[MEP(未来を笑顔にプロジェクト)代表]



私たちMEP(メップ)は、赤い羽根共同募金についてより多くの人に知ってもらい、未来を明るく、笑顔いっぱいのまちにすることを目標に活動しています。その活動の一つとして、ゼブラ株式会社とコラボさせていただき、寄付つきボールペンと寄付つき蛍光ペンを企画・商品化し、本学売店にて販売しています。

この活動を通して、みなさんに少し違った募金の形を提供することで、赤い羽根共同募金について知っていただきたいと考えています。多くの人は募金というと、募金箱にお金を入れることを想像するかもしれませんが、しかし、このような寄付つき商品を購入することで、募金に繋がる方法もあります。このため、私たちは、購入する方に喜んでいただけるように、ペンのデザインや色などにも工夫しています。また、販売の際にも、買っていただくだけではなく、赤い羽根共同募金についてより知っていただくため、ポップやポスター、チラシなどで説明を行いました。

今後は、この活動を私たちだけで留めるのではなく、他大学の学生とも報

告会を開くなど交流し、活動を全国に広げたいと思っています。日本の未来がより明るく、笑顔いっぱいになるように！



「やりたい！」を叶える

看護栄養学部 栄養学科
2013年3月卒業

松浦 瞳さん

[YPU ドリームアドベンチャープロジェクト※
「YPU SWEETS PROJECT」代表]



栄養学科で学んだ知識や経験を活かして、糖尿病患者さん向けの1食80kcalのお菓子を作ろうと思ったのは2年生の頃でした。勉強や就職活動、国家試験勉強などで大切な時期に、新たに活動を始めることはとても不安でしたが、一緒に活動したいと力を出し合ってくれた後輩や支えてくださった先生方のお陰で、市場調査や勉強会を行い、試作を何度も重ね、レシピを開発することができました。難

しさを苦勞を実感すると共に大きな達成感を得られました。

そして、開発したお菓子をYPUすこやかライフセミナーや小児糖尿病キャンプ、糖尿病患者会で提供した際には、食べた方々から、「普段、我慢しているケーキを低カロリーで食べられるのは嬉しい」「商品化してほしい」「ボリューム感があってうれしい」といった生の声を聞くことができ、活動の成果を感じました。自分の「やりたい！」という思いを抑えず、恐れずに行動したことで、叶えることができたのだと思います。

大学での4年間は思っていた以上にあっという間に過ぎましたが、思い返すと多くの人と出会い、経験し、充実した日々でした。卒業後は、これらの経験を活かして食品企業で活躍したいと思っています。



※ YPU ドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生生活をさらに楽しく豊かにするために、学生(個人やグループ)が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が経費を補助し、夢の実現を支援する事業です。

▶▶▶▶ Circle Report

よさこいサークル奄美連合萩組

看護栄養学部
看護学科3年

町田 美咲さん
代表



感謝、伝えられる演舞を！

よさこいサークル奄美連合萩組(通称：奄連)は、今年で結成10周年という節目の年を迎えました。初代の先輩から10年が経過し、ここまで活動を継続することができました。よさこいを今できるのも、初代の先輩を初め、

サークル紹介

歴代の先輩方、奄連に関わってくださった全ての方々の支えがあったからだと思っています。支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを忘れず演舞していきたいと思ひます。

また、県内県外の施設演舞にも参加させて頂き、多くの方々と触れ合いました。「よさこい」を通して、たくさんのお会いがあります。出会いの中で、学び、成長することができると思ひます。これからも、祭り、施設演舞に参加し、人との出会いを大切



YOSAKOIさせば祭り(ハウステンボス/長崎県)

にしながら活動していきたいと思ひます。メンバーの思いを一つにして、観てくださる全ての方々に楽しんでもらえるように、私たちの思いが伝わるように踊っていきたく思ひます。



Exchange International

国際交流

●●海外スタディツアー体験記●●

～ハワイで学んだアロハの精神～

国際文化学部国際文化学科
2013年3月卒業

高坂 真生さん



プランテーションビレッジにて

平成25年2月9日から2月15日までハワイ研修に参加し、アクティブエイジングの秘訣と日系ハワイ移民について学びました。4つの高齢者施設を訪れ、ハワイ大学の生命倫理委員会の承認を得て本学の先生方が実施される国際共同研究補助に当たりました。調査からは、体調に様々な困難を抱えていても人生を前向きに捉えて毎日を楽しんでいる様子が覗え、人生の大先輩のアドバイスを受けられることが有り難いと思うくらいでした。事前にハワイ大学で受けた講義で学んだように、日本も2050年には世界でトップの高齢化社会になります。健康で長生きする時代に向けて、私もその一員として社会を支え、自分が高齢になっても若者に何かを伝えていけるように豊かな経験を積んでいきたいと思いました。

私は本学からアメリカに交換留学生として派遣された経験をもちます。留学中は自分のアイデンティティについて悩むことがあったので、二つの文化を持つハワイの日系人の方々がどう生きてきたのか、とても興味がありました。ハワイ日本文化センターや移民の人々が働いたプランテーションセンターなどで、一世の人々の苦労や戦時中のハワイの日系人(二世)は迷わずアメリカ人として日本と闘っていたという事実に衝撃を受けましたが、二世や三世は日本の文化も受け入れ、両方の文化を自分の中で活かそうと努力してきたという歴史も知りました。

多様な人々が混じり合って生活しているハワイ。日系人といっても、日本とは違った文化や考え方があり、それぞれの違いを超えて明るく生き生きと暮らしている姿が、私にはとても魅力的に見えました。ハワイで見られる日本文化は、古典的で伝統的なものがある一方で、様々な文化的要素が混じって新しいものが生まれるハイブリッドなものもあり、外から日本を見ることは、自分自身について考えるよい機会となりました。

今回、学生リーダーとして参加させて頂くことができ、グループをまとめるという点でも学ぶことが多くありました。私はこの春から観光の分野に就職するので、この研修で学んだことを忘れず、日本の知識をもっと深めて、世界中から来日される方々に日本の良い面を伝えていきたいと思えます。



ダイヤモンドヘッドの頂上からの風景

●●短期語学・文化研修体験記●●

留学の第一歩として、韓国・慶南大学校、中国・曲阜師範大学、カナダ・ビショップス大学のいずれかで夏休みを利用した約1ヶ月間の語学・文化研修を実施しています。

韓国 ～慶南大学校～

国際文化学部
国際文化学科4年

瀧本 愛彩さん



伝統楽器サムルノリ体験

昨年、創立20周年を迎えた日韓学生交流プログラム「慶南青年カレッジ」の実行委員会の活動に2011年度に参画しました。その際、異文化交流の素晴らしさに触れたことがきっかけで、本学の姉妹大学である慶南大学校(韓国)での



テコンドー体験

短期語学・文化研修プログラムに応募することを決めました。

滞在中は、日本語を話すことのできる「トウミ」という慶南大学校の学生がお世話をしてくれたので、困ることはありませんでした。また、様々な企画が用意されており、勉強だけでなく、イベントも盛り沢山の毎日だったため、帰国する頃にはへとへとになる程充実した21日間でした。

しかし、異文化に触れて生活する中で、お互いの認識の違いについて、改めて考えさせられることもありました。「私の考えは正しい。あなたの考えはおかしいわ。」と決めつけて批判してしまうこともあり、「自国の文化・考えが正しい。」と思うのは自然かもしれませんが、その段階で留まらず、相手と向き合い、お互いが納得するまでぶつかり合いました。



研修の合間に…皆で海にダイブ(海雲台(ハウンデ))

異文化を理解することは簡単なことではありませんが、お互いが一步步み寄ることにより、新たな文化を受け入れ、新しい関係を築くことができると実感しました。これから



語学文化研修の最終発表

は、異文化交流の素晴らしさを次の世代に伝える会を企画・運営し、多くの学生たちに発信していきたいです。

スタッフ紹介

平成24年度に文部科学省の採択を受けた2つの事業を推進するスタッフを紹介します。

グローバル人材育成推進プロジェクトチーム

副総括
(教育担当)

統括

副総括
(プロジェクト担当)



国際文化学部長
いわの まさこ
岩野 雅子

国際化推進室長
シャルコフ・ロバート

プロジェクトマネージャー
かしへ まさき
榎部 正樹

各プログラム班のリーダー
(国際文化学部教員)



域学共創プログラム班
文化創造学科准教授
さいとう ただし
齊藤 理

語学教育プログラム班
国際文化学科准教授
いむ ひよんじゅん
林 炫情

IPDポイント班
国際文化学科教授
まつだ おさむ
松田 理



プログラムコーディネーター
たむら せつこ
助教 田村瀬津子



言語演習コーディネーター
もりはら あや
助教 森原 彩



ICTアドバイザー
むらかみ ゆきお
村上 幸生



留学アドバイザー
はやしかわち かこ
林川千賀子



プロジェクトアシスタント
ふじい なみこ
藤井南海子

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

スタッフ

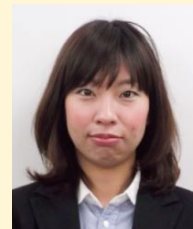
インターンシップの充実等、就業意識の涵養を目指した取組を進めます。



(総括)
学生支援部長
ひとみ えり
人見 英里



(教育改善担当)
共通教育機構
こうはら さだふさ
教授 甲原 定房



(インターンシップ担当)
学生支援部
よしざわ まほ
助教 吉澤 茉帆



(キャリア形成支援担当)
学生支援部生活支援グループ
リーダー
まつだ かずなり
松田 和也

平成25年度新規採用教員



社会福祉学部社会福祉学科
准教授
かみしら きえつこ
上白木悦子
専門領域：医療福祉論



社会福祉学部社会福祉学科
講師
はせがわまさし
長谷川真司
専門領域：コミュニティソーシャルワーク論



社会福祉学部社会福祉学科
助手
まつお よしかず
松尾 義和
専門領域：社会福祉・精神保健福祉



看護栄養学部看護学科
教授
うらやま あきみ
浦山 晶美
専門領域：母性看護学・助産学



看護栄養学部看護学科
准教授
ささき なおみ
佐々木直美
専門領域：臨床心理学



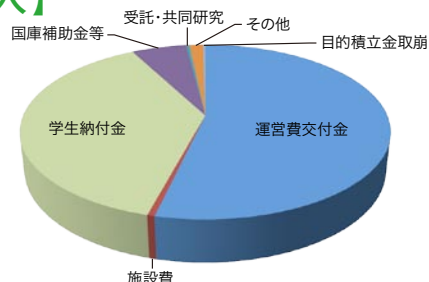
平成25年度の予算

【予算規模】

(千円 %)

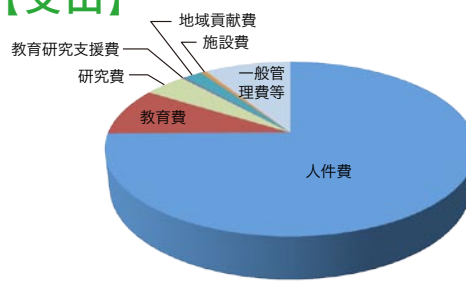
区分	平成25年度 [▲]	平成24年度 [■]	増減額 [◎] = [▲] - [■]	増減率 [◇] = [◎] / [■]
予算額	2,112,522	1,928,895	183,627	9.5

【収入】



- ◆運営費交付金と学生納付金の合計で収入全体の91.7%を占めています。
- ◆国庫補助金は、文部科学省補助事業の採択により大幅に増加しています。(前年の約3.4倍)

【支出】



- ◆人件費は15億81百万円であり、支出総額の74.8%を占めています。
- ◆残り25.2%を占める事業費(教育研究に係る経費など)は、5億31百万円となっています。

【主な取組】

教育研究

グローバル人材育成事業

地域とグローバル社会との架け橋になるInter-local人材を育成するため、国際文化学部既存のカリキュラムに加え、新たに4つの取組を実施します。

- ・「域学共創プログラム」の展開
- ・「4技能+α」総合的外国語運用能力の育成
- ・IPDポイント制度の導入
- ・「域学連携コンソーシアム」の設立

また、日本学生支援機構の留学生交流支援制度(国の重点政策)による奨学金を活用して、多くの学生を海外に派遣します。

地域実践力を培う教育

実習受入機関との連携強化により専門分野の実習教育をより充実します。また、卒業展や学会発表、課外活動も含めた学外実践体験を支援し、実践力と地域マインド豊かな人材を育成します。

産業界ニーズ対応人材育成事業

中四国地区の大学グループ14校が連携して、地域の産業界等と一体となった人材育成や、産業界等のニーズを踏まえた教育の取組を推進します。

地域貢献

オープンカレッジ

大学の授業を公開する「公開授業」、出前でお届けする「公開講座」、専門的なニーズにお応えする「やまぐち桜の森カレッジ」「サテライトカレッジ」、現職者のスキルアップのための「キャリアアップ研修」など、さまざまな講座を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

感染管理看護体制強化事業

病院等の機関において感染制御の中心的な役割を担う看護師のスキルアップを図り、医療現場での感染対策を推進するため、専門職を対象とした研修やアドバイザーの派遣を行います。

学生支援

就職活動支援

各種就職講座・説明会の開催をはじめ、専門分野別キャリアアカウンターの配置、インターンシップの推進など様々な就職活動支援により、学生の就職力を高めます。

修学支援

授業料減免制度の運用や、生活支援グループによる各種奨学金情報の提供等により、安心して就学し続けることができる環境を整えます。

特定課題

第二期施設整備計画対応

実施に向けて確実な第一歩を歩み出した「山口県立大学第二期施設整備計画」が効果的に推進されるよう、本学として必要な調査検討を進め、平成25年度に行われる実施設計に対応します。

Topics

■国際文化学部国際文化学科 遠藤 史菜（えんどう ふみな）さんが、第30回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会で第2位に入賞

国際文化学部国際文化学科の遠藤史菜さん(現4年生)が、1月に東京で開催された「第30回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会」の「大学生スピーチ部門」に出場し、見事、第2位に入賞しました。(本学からの全国大会出場は初)

本大会は、全国19の都道府県大会を勝ち抜いた20人が実力を競い合うもので、「大学生」「高校生・一般」の2部門からなっており、審査は主に、中国語の発音、スピーチ内容、中国語での質疑応答から構成されています。「中国への深い思いと日中のこれから」というテーマでスピーチし、高い評価を受けました。

遠藤さんは、「この大会を通して更にこれからの課題が見えてきました。次は世界大会に挑戦したいです」と意気込みを語ってくれました。



本学への寄付 (H24年度下半期分) H25.3.15現在

(五十音順)

秋田 和美 様	河村 朋江 様	俵 佳須美 様	藤本 増恵 様
井上 久子 様	岸田トモコ 様	長 美智子 様	増原 慶子 様
岩政 桂子 様	木村 僖乃 様	富田 縁 様	舛本 博子 様
植野 悦子 様	國司 宗子 様	中村真理子 様	松本 直江 様
江里 健輔 様	蔵重 文子 様	西村 敦子 様	三戸智恵子 様
大島佐代子 様	桑原 雅子 様	原田 洋子 様	村上 房子 様
大浜 悦子 様	近藤ヨシエ 様	平原 絹子 様	免出 和子 様
小田 隆江 様	鈴川佳壽子 様	福田 玲子 様	安光 裕子 様
柏木 綾乃 様	高橋 和子 様	福原 淳子 様	矢田 和子 様
兼田サダ子 様	高畑 信子 様	藤兼 玲子 様	山根 和美 様
亀山千恵子 様	田中 光子 様	藤田 順子 様	芳川 京子 様

●山口県立大学教育後援会

ほか15件

計60件 合計1,959,500円

(うち「さくらの森夢基金」 計56件 合計1,035,000円)

ありがとうございました。

編集後記

平成25年3月春分の日 渡邊 隆之(経営企画部長)

「はあ、1年経っちよる」、年度替わりの時期に発したこの一言。ところが、「ちよる」はともかく、「はあ」が相手に通じず、拍子をとる囃子なのかと聞かれました。もちろん、「もう」の意味だったのですが・・・

若かりし頃、方言、御国訛りを気恥しく思いましたが、大学では、全国各地の御国訛りが飛び交い、居ながらにして見聞し、世間が広がったような気になったものでした。それでいて、ふるさとへの愛着も深まったことを憶えています。

さて、時を経て、今の若者たちは、世界の言葉の違いを超えてコミュニケーションを図り、見聞を大きく広げようとしています。本学でも、グローバルに活躍できる人材の育成に努めていますが、今回、特集しましたように、新年度からはさらにその取組を加速することとしています。

願わくば、学生たちが将来、「地域マインドやグローバルマインドは、この大学にいる間に育まれた」と回想し、語るができるよう、今という一幕を大切にしていきたいものです。

皆様からのご意見・ご感想をいただければ幸いです。



〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号

Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251

<http://www.y.pu.jp/>

※Web動画配信も行っています。

なよし農業小学校*のボランティアスタッフとして活動している様子。「田車」という手押し車を使って、子どもたちと一緒に、田んぼの雑草抜きをしました。

※島根県鹿足郡津野町名賀(なよし)での農業体験を通して、子どもたちに生きる力を育む体験型の学校

表紙の題字は、江里理事長(学長)の直筆です。

